

学習応援教室 in 国立ひだか青少年自然の家 ～小学3・4年生の夏。9歳の壁に会う！～

◆北海道の広大な自然で親元離れて体験する「自分で決める」4日間

8月16日～8月19日で小学3・4年生を対象に

北海道は国立日高青少年自然の家をお借りして、

宿泊型プログラム「学習応援教室」(3泊4日)を行いました。

8月の学習応援教室は日能研札幌の子ども達が参加してのプログラムでした。

いつも同じ教室で言葉を交わしたり、学んだり、遊んだり…

そんななかかわりを持つ子ども達が、教室を飛び出し、

普段学んでいる教科の枠を飛び出した時、どんなことが起きるのでしょうか。

今回は札幌の教室のスタッフも参加して、子ども達を見守っていました。



7月に行った首都圏の学習応援教室と違うのは、普段のお互いを知っている仲間であること。

言葉にしなくても何とか通じたように思い、通じていないのをそのままにすること。

ここではあえて、さまざまな場面で言葉にして相手に伝えることをとことんチャレンジ。

時には言葉だけではなく、お互いの行動を分析しながらミッションをクリアする「人間知恵の輪」にチャレンジもしました。

指示をしてテクニックを教えることの方がどれだけ簡単でしょう。

でも、それでは子ども達の「できた！」を自分たちのこととして受け取ることは困難です。

子ども達がチャレンジできる環境をどれだけ準備できるか、そして「待つ」ことがどれだけできるか。

大人が先回りしてやってあげるのではなく、環境を作り、「自分が自分で自分を育てる」ことができるよう、見守ります。

火起こし以外にも、日能研が大切にしている「自由」(自分を大切に 相手を大切に みんなを大切に 一同時にー)を真ん中に

子ども達はプログラムの中で、生活の中で、「自由」を考え続けて行きました。大人でも、「自由」を作り続けるのは難しいこと。でも、周りを見て、自分自身に問いかけて、今自分はどんなことができるだろう。

そうして今何が必要なのか、自分はどう動くことができるのかー役割分担ではなく、役割行動をするーを考えるきっかけを、そのさまざまな場面で子ども達に渡して行きました。

子ども達が帰ってからの様子を保護者の皆さんに聞くと…

◆ケンカもしたようだが、それも自分達で解決できたようだ。

つい手出し・口出ししたくなるが、意外と自分で頑張れる力があるのだと感じた。

◆帰ってきてから自分のことを自分でやるようになった。

数日間で、「自分でやる」意識がついたようだ。今までの様子からは考えられない変化。

◆最終日に仲間からもらった手紙を読むと、家や学校での様子見ていて感じていた我が子の短所がそのまま書かれていた。

親から言われても意に介せずだったが同級生からもそう見えていると知るのには良いことだし、言ってくれる仲間がいて良かったと思う。

自分だけの世界から飛び出す暑い夏。

仲間と共に過ごしたこの4日間は、子ども達にとっても保護者にとっても大きな一歩になったようです。



<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp